第2回あり方検討会の意見について

論点	意見の内容
1（1） 子どもの意見表明を支援する体制づくりについて	・子どもの状態や実態把握は、何かの役割を介して関わるなど、何らかの活動を伴って行うほうがよい。
	・外部の方が意見を聞き取るなど、第三者的な、社会の風を、疎通性のあるようなシステムをつくる必要がある。
	・自己決定を促す時に大事なことは、いかに説明するかであり、適切な情報提供を行ったうえで、自己決定、意思決定ができると考えられる。
1（2） 心理的ケアを必要とする子どもへの支援について	・医療や特別支援教育など、学園の中だけではアセスメントや支援計画が立てにくいポイントについて、どう盛り込んでいくのかが課題である。
	・愛着に加えて、発達特性に関しても検討する必要がある。
	・発達特性にあった生活の仕方について、学園の関わりをこれからも維持しながらやっていきただきたい。
	・トラウマインフォームドケアを含めてどのように連携していくのか、資質を高めていくのかが課題である。
	・特別支援の考え方を導入した場合、情報を少なくし、できるだけ視覚的にするなど、生活上の支援に繋がるポイントが見つかると思われる。分校の中でも特別支援的な要素を入れて、連携を通した心理的ケアを検討するとよい。
	・児童心理治療施設と児童自立支援施設について、高知県内の状況を比べたものについて、次回資料をいただきたい。
1（3） 自立支援計画の策定と実施について	・第2次、第3次の日常生活の評価の項目については、自閉スペクトラム症の子どもにとっては難しい項目がいくつかある。
	・どうすれば良いのかということが目標設定として適切であるため、項目の表現について、肯定形にするなど改善が必要である。
	・自立支援計画を考えた際、本人が自立していくことが大事であり、何が課題であるかといった内容を本人が知っていることが重要である。
	・本人が得意なことや頑張りたいことに対して教育や保護者がどのように支援するかを記載するなど、期待されていることなどが示されたほうがよい。
2（1） 退所児童への支援体制について	・学園で支援した方がよい子どもは、中学卒業で退園するのではない方法を検討してもらいたい。
	・高校生への支援になると、外部との関わりが多くなりコントロールの難しさがあるため、別棟における支援や、高校との連携も必要である。
3（1） 子どもの生活環境の見直しについて	・子どもの生活と離れたところで専門的に関われる職員配置が必要である。
全体について	・より社会に解放された施設のあり方を、これから児童自立支援施設は目指していくべきである。社会をどう巻き込んで、あり方を考えていくのかは大事である。
	・ステージ制については、単に得点をつけるのではなく、そこに関わりの工夫があり、ステージが上がらないときには多様なケアを入れていく。医療的、心理的、親子関係など多様なケアを入れてステージを上げていき、そして社会に送り出していくといった、このような希望が丘学園のあり方が理想と考えられる。
	・児童自立支援施設においても心理的援助は行っているが、生活を大事にし、生活を基盤とする中で、質を上げていくために、心理的、医療的な治療をしたり、ケアを行っている。これらがステージ制の基盤になっていると考えられる。
	・ステージ制の強みを活かして支援が強化できるよう、ステージ制の拡充についても検討してもらいたい。
	・日々の引継ぎは大事であり、学園内で共通の理解をもって、子どもへの支援に活かしていくことが必要である。
	・ケースカンファレンスや、多くの人が集まり意見交換を行うことは大事である。